令和６年度研究推進計画

江田島市立能美中学校
校長　田中　祐二

１　研究主題、研究内容・方法について

（１）研究主題

個別最適な学びの実現 ～問題解決過程における個に応じた指導の在り方～

（２）研究主題の設定理由

現代において社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難な時代である。それらへの対処として、受け身の観点に立つのであれば難しい時代になると考えられる。しかし、このような時代であるからこそ、変化を前向きに受け止め、感性を働かせより豊かなものにしたり、新しい未来の姿を構想し実現したりできる時代でもある。

さらに、子供の貧困や特別支援教育、外国につながる子供、不登校児童生徒の課題など、子供の発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、一人一人の可能性を伸ばしていくことも課題となっている。

これからの未来の社会を見据え、中央審議会では「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～すべの子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～(答申)」(令和３年１月 26 日)が取りまとめられた。

本校においても、学校教育目標を「自分で考え、全力を出し尽くす生徒の育成」と設定し、特に令和３年度から３年間は「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」指定として、『児童生徒の探究的な学びが生まれる授業の創造～小中９年間を見通した生活科・総合的な学習の時間の在り方～』という研究主題のもと、「主体性」「伝え合う力」の育成に取り組んだ。

「主体性」においては、生徒が試行錯誤し「選択」や「自己決定」の場を設定することで、「自ら進んで課題に取り組む態度」「学習に見通しをもつ力」「目標に向かって完遂しようとする態度」の意識向上が見られた。「伝え合う力」については、各教科でカリキュラム・マネジメントを実施し、文章の書き方、収集した情報のまとめ方や資料の効果的な提示方法など、各教科で学習したことを、総合的な学習の時間で活用する活動を設定することで、相手を想定した効果的な表現方法を工夫する力が高まった。

その結果、生徒アンケートから、「物事を進めるときに見通しをもった計画を立てるようにしている。」についての肯定的回答の割合が 74%から 83%、「授業では、課題の解決に向けて、進んで、資料を集めたり取材をしたりしている。」は、71%から 87%に上昇した半面、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。」や「授業では、自分の考えを積極的に伝えている。」については、肯定的回答の割合はそれぞれ 75%前後であり課題が見られた。

また、令和５年度全国学力・学習状況調査及び令和５年度江田島市標準学力調査の結果において、「知識・技能」と「思考・判断・表現」、「基礎」と「活用」を

それぞれ比較すると、国語の結果においては全国よりも殆どの観点で上回り、学力の向上が見られた。一方、数学や英語の積み上げ型の教科では、基礎的・基本的内容が定着しておらず、活用問題にも課題が顕著である。

（単位％）

		国語		数学		英語	
		本校	全国	本校	全国	本校	全国
令和５年度 全国学力・学習状況調査 （３学年）	知識・技能	64.3	69.4	42.0	55.7	47.8	51.5
	思考・判断・表現	71.5	69.7	33.3	41.6	35.0	39.8
令和５年度 江田島市標準学力調査 （２学年）		国語		数学		英語	
		本校	全国	本校	全国	本校	全国
	基礎	77.5	73.4	52.9	55.4	58.7	54.9
	活用	62.9	56.7	29.2	34.1	40.8	39.8
令和５年度 江田島市標準学力調査 （１学年）		国語		数学		英語	国語
		本校	全国	本校	全国	本校	全国
	基礎	69.2	62.9	70.9	59.1	51.5	58.0
	活用	64.9	60.2	39.8	37.3	38.7	46.3

本校の生徒アンケートの「分からないことをそのままにせず、分かるまで努力している。」の結果については、85.5％と概ね良好と言えるが、各種学力調査の結果を踏まえ、個々の学びの深まりは不十分と考えられる。さらには、学力が十分身に付いていない生徒にとっては、従来の一斉授業型では、確かな学力を身に付けることは難しいと考える。

そこで、各教科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の中でも、特に「基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題に対して、それらを身に付けさせるために、生徒の学びを深めたり主体性をひきだしたりといった工夫を確実に重ねること」と「生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すこと」を研究の重点とし、今年度の研究主題を「個別最適な学びの実現～問題解決過程における個に応じた指導の在り方～」と設定した。

（３）研究仮説

生徒が主体となって学びを進め、教員が生徒の実態に合わせた最適な手立てを実行することで、学習のねらいを確実に達成し、学力の向上に繋がるであろう。

（４）研究内容

《取組の柱》

１　単元(題材)を構想する

２　「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを往復する学習活動を展開する

３　ICT を最大限に活用する

《取組のポイント》
①学習時間の柔軟な提供・設定
②見通しと振り返りの設定
③個に応じた学習活動の設定
④他者に聞くことができる機会の提供
⑤個に応じた学習課題の取り組む機会の提供及び学習環境の整備

（５）検証の指標

〇数値による検証

指標	達成目標	検証時期	検証方法
生徒アンケート	全項目県平均以上 ２回目調査で向上	７月 12 月	質問紙調査
全国学力・学習状況調査	全項目県平均以上 ２回目調査で向上	５月 ２月	質問紙調査
広島県児童生徒学習意識等調査	全項目県平均以上	６月	質問紙調査
全国学力・学習状況調査	全科目県平均以上	５月	小６・中３
江田島市標準学力調査	全科目目標値以上	２月	小１～中２

２　検証計画

月	内容
５月	全国学力・学習状況調査　質問紙記入
６月	広島県児童生徒学習意識等調査
２月	全国学力・学習状況調査（過年度） 江田島市標準学力調査　「主体性」「協働」に関する設問

３　本研究に係る研修計画

月	研　究　内　容	担当部会、担当者
4	校内研修（研究の概要について） 評価の仕方について 全国学力・学習状況調査（３学年）	研究主任 校長 教務部
5	中３経年変化分析調査 校内研修（特別支援教育の考え方、特別支援計画の作成について）	教務部 教務部
6	広島県児童生徒学習意識調査（２学年） 校内授業研究会・研究協議① １学期期末試験	教務部 研究主任 教務部
7	校内授業研究会・研究協議② 生徒アンケート	教務部 全学年
8	全国学力・学習状況調査結果分析	教務部
10	校内授業研究会・研究協議③	研究主任
11	校内授業研究会・研究協議④ ２学期期末試験	研究主任 教務部
12	校内授業研究会・研究協議⑤ 生徒アンケート最終検証 江田島市標準学力調査（１・２年）	教務部 教務部 教務部
1	研究のまとめ	研究主任
2	全国学力・学習状況調査（過年度） 江田島市標準学力調査結果分析	教務部 教務部
3	次年度の方向性の検討	教務部